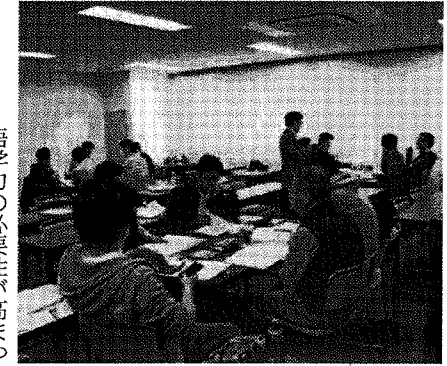


日本経済新聞社と就職・転職情報サービスの日経HRは共同で、ビジネスパーソンを対象に新たに取得したい資格（語学検定含む）を調査した。首位は中小企業診断士で前年の6位から大きく順位を上げた。上位には英語能力テスト「TOEIC」や企業の財務部門での業務に生かせる日商簿記検定など、実用性の高い資格が多く入った。



### 客観的な証明に

今後資格取得に向け「勉強したい、勉強を始めている分野がある」と回答したのは40・6%だった。資格取得を目指す目的（複数回答）の首位は38・8%の「自分の知識・スキルの客観的な証明になるから」で「将来のキャリアアップのため」（28・0%）が続いた。

# 中小企業診断士トップに

## 取得したいビジネス関連資格 本社など調査

新たに取得したい資格ランキング		
	資格名	割合(%)
1	中小企業診断士	16.0
2	TOEICテスト(Cレベル、470~730点未満)	15.4
3	TOEICテスト(Bレベル、730~860点未満)	14.8
4	TOEFLテスト	14.0
5	宅地建物取引士	12.5
6	日商簿記検定2級	5.3
7	日商簿記検定3級	5.2
8	TOEICテスト(Aレベル、860点以上)	4.9
9	TOEICテスト(Dレベル以下、470点未満)	4.5
10	ビジネス実務法務検定準1級、2級	4.4

## やはり英語、簿記上位

語学力の必要性が高まっていることを反映した。

幅広い層に人気の中小企業診断士講座（IEC東京リーガルマインド池袋本校）5位は宅地建物取引士で前年の4位から順位を落としたものの人気は根強い。日商簿記検定は6位に2級、7位に3級がそれぞれ入った。

1~2年以内にいつまでに資格を取得したいかでは、1~2年以内が42・2%で最多だ。

勤務先で資格取得に対する支援がある人は46・2%。具体的には、学費の一部援助や報奨金・資格手当の支給などが挙げられた。資格取得に対する評価・処遇があると答えた人は27・9%で、海外赴任や昇格の条件などになつているという。

取りたい資格で首位の中小企業診断士は経営コンサルタントを認定する唯一の国家資格で、中小企業の経営診断・助言を担う。合格率約4%と難易度は高いが、経営全般に関わる知識を習得できるため会社員や公務員など幅広い業種で人気を集めている。将来のポストに不安感を抱く会社員らが、昇格や独立への備えとして取得するケースが増えていると見られる。

前回1~3位を占めたTOEICの人気も根強い。2位にTOEICテストのCレベル（470~730点未満）、3位に同Bレベル（730~860点未満）が入り、英語圏の多くの大学などが入学要件に用いているTOEFLテストも4位に入り、企業へのグローバル化が進むなかで

保有している資格への満足度について聞いたところ、ランキング上位はIT（情報技術）関連の難関資格など専門性が高い資格が目立った。「満足」の内容としては、「コストパフォーマンスの高さが高評価につながる傾向が見られた。満足度は資格取得にかかった「費用」と「時間」、現在の業務への活用度、将来的に活用できる見込み（将来性）の4項目の合計で算出した。

首位はITエンジニアの

### 満足度、専門性に比例

### 保有資格「低コスト」も評価

満足度ランキング	
1	応用情報技術者
2	秘書技能検定2級
3	ビジネス実務法務検定3級
4	ビジネス実務法務検定2級
5	電気工事施工管理技士
6	マイクロソフト認定
7	日商簿記検定2級

国家試験である応用情報技術者だった。例年合格率が2割程度という難関資格だが、エンジニアに必要な幅広い知識が身につくため、取得後も業務に役立つとの声が多い。ITエンジニアに必要なが、幅広い知識が身につくため、取得後も業務に役立つとの声が多い。